LGBT Lesbian Gay Bisexual Transgender

多様な性を考える映画祭

The Ninth Aomori International LGBT Film Festival

第9回青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバル

2014.7.13(日)

13:00〜

12:30 開場　17:25 終了予定

アウガ5Fカダール AV多機能ホール

〒030-0801 青森市新町1-3-7(JR青森駅前)

前売券販売所

■青森市／青森松竹アムゼ（☎017-731-1177）／サンロード青森 1F 総合サービスカウンター（☎017-722-8111）／成田本店しんまち店プレイガイド(☎017-723-2431)

遠方の方には郵送いたします。詳しくはウェブサイトをご覧いただくか、お問い合わせください。

前売券

1日通し券 **¥2,000**
上映される3つのプログラム全てをご覧いただけます。

1プログラム券 **¥1,000**
上映される3つのプログラムの中からひとつお選びいただくチケットです。

当日券

1日通し券¥2,500
1プログラム券¥1,200
※学割チケット(通し券のみ)¥1,500

チケットは全席自由席です。当日券は映画祭会場受付にて残席に応じて販売いたします。

※学割チケットは開催日当日に販売いたします。受付にて学生証をご提示ください。チケットのご予約は下記お問い合わせ先またはウェブサイトからお申し込みください。(学割チケットの前売りはいたしませんので、ご注意ください。)

映画祭終了後 懇親会開催

映画の感想などを語り合いましょう！

■会場／青森グランドホテル　JR青森駅前
カフェテラス「パティオ」2F

■参加費／¥2,500 ※食事・飲物込

お申し込みはウェブサイトまたはお電話で

お問い合わせ

青森インターナショナルLGBT
フィルムフェスティバル実行委員会

☎090-6459-5136

※留守番電話の場合があります。メッセージを残してくだされば、こちらからご連絡いたします。

✉info@aomori-lgbtff.org

※会場内、会場付近での写真撮影は固くお断りいたします。※上映中の入場はできませんので、予め開演時間等をご確認ください。(上映が始まりますと会場内が暗くなり、足元が危険です)※会場内での飲食はできませんので、ご了承ください。ただし、アウガ5F会場前は、ベンチが設置されている館内公園となっており、飲食可能です。※再入場の際はチケットの半券を係員へご提示ください。

主催／青森インターナショナルLGBT
フィルムフェスティバル実行委員会
協力／香川レインボー映画祭
やっぱ愛ダホ！idaho-net.
デザイン／エイチピースタイリング

Call Me Kuchu ウガンダで、生きる

青森県内初上映

2009年、アフリカ東部のウガンダでは、同性愛者を死刑にできる法案が議会に提出された。民衆の差別感情を煽り立てるメディアや政治家と、それでも自らの存在を確かめ今日を生きのびる人々、神という名の暴力と希望……。『私が私であるという 命がけの闘い』を描いた渾身のドキュメンタリー。

■監督：Katherine Fairfax Wright, Malika Zouhali-Worrall
■製作国：USA、ウガンダ　■製作年：2012年　■上映時間：87分
■言語：英語(日本語字幕あり)　■字幕提供：やっぱ愛ダホ！idaho-net.

TSUYAKO

東北初上映

戦後復興期の大阪。繊維工場で働きながら幼い子ども達を育て、夫と姑に仕える艶子のもとに、昔の恋人ヨシエが訪ねてくる。愛するヨシエとふたり東京へ行くのか、自分の幸せを犠牲にして家族を選ぶのか。宮崎光代監督自身の祖母をモデルに、当時の女性としての義務と家族への犠牲心を描いたドラマ。世界中の映画祭で上映され、数多くの賞を受賞している。

■監督：宮崎光代　■製作国：USA、日本　■製作年：2011年
■上映時間：25分　■言語：日本語(英語字幕あり English Subtitles)

エソラ

東北初上映

『誰かに恋をして、焦がれる気持ちは異性愛者も同性愛者も同じ』という田中監督が描く恋物語。デュオを組む和真と宏之は、一周年ライブに向けた新曲作りが進まない。ライブ喫茶のマスターが見守る中、せつない勘違いと嫉妬を経てふたりの気持ちが近づく。

■監督：田中昭全　■製作国：日本　■製作年：2013年
■上映時間：20分　■言語：日本語

僕の中のオトコの娘

青森県内初上映

僕を変えたのは一着のワンピースだった…。不器用な"オトコの娘"の自分探しの旅が始まる！マスカラを塗りルージュをひいてワンピースに着替えた、みんなとちょっと違う女装娘(じょそこ)が愛おしくなる、全く新しいタイプの青春ムービー！

■監督：窪田将治　■製作国：日本　■製作年：2012年
■上映時間：100分　■言語：日本語(英語字幕あり English Subtitles)

『多様な性にYes! IDAHOメッセージ展』を同時開催します

日時：2014.7.13(日)12:00〜18:00
会場：アウガ5F カダール AV多機能ホール前
※どなたでも無料でご覧いただけます。
共催：スクランブルエッグ

毎年5月17日のIDAHO(International Day Against Homophobia and Transphobia:国際反ホモフォビア&反トランスフォビアの日)は、同性愛やトランスジェンダー等への嫌悪や差別に反対する日として、世界中でイベントが開催されます。日本でも「多様な性にYes!」をテーマにメッセージを募集し街頭で読み上げるアクションや、講演会、展示会など、各地で様々な催しが行われています。

昨年のメッセージ展より

青森県では2009年より、県内のLGBTが中心となって活動するボランティアサークルであるスクランブルエッグが、IDAHOに寄せられたメッセージを展示紹介する取り組みをしており、2011年からは当映画祭とのコラボレーション企画として「IDAHOメッセージ展」を映画祭会場前にて開催しています。

今年も引き続き、このメッセージ展を映画祭会場前にて同時開催することとなりました。当日はご来場の皆様からのメッセージも募集・展示いたします。是非展示会場に足をお運びください。映画とメッセージを通して、多様な性をより身近に感じていただける一日になれば幸いです。

最新情報は公式サイトで要チェック！　http://aomori-lgbtff.org

The Ninth Aomori International LGBT Film Festival

プログラム内容

❶「Call Me Kuchu ウガンダで、生きる」　13:00〜14:30

❷「TSUYAKO」「エソラ」　14:45〜15:30

❸「僕の中のオトコの娘」　15:45〜17:25

上映作品監督、協力団体の方々よりメッセージをいただきました。

「Call Me Kuchu」上映にあたり、ご協力下さった「やっぱ愛ダホ！idaho-net.」代表　遠藤まめたさんより

はじめてウガンダのことを知ったのは署名サイトの呼びかけだった。「同性愛者を死刑にする法律が通りそうだ、なんとかして制止しよう」という悲痛な呼びかけを見て、署名サイトをクリックした。その後、何度もウガンダの報道を耳にした。あるときはゲイの活動家が殺されたニュースを見た。

署名以外にやることはないのかと、心の中でずっと思っていたので、ある冬の夜に大学生から『Call Me Kuchu』という映画があることを聞いたときには、二つ返事で翻訳しようと約束してしまった。遠く離れた日本の地で、私たちに何がどこまでやれるかわからない。国内のことで、というより、自分の身の回りだけでも大変な毎日なのに「新たな宿題」を自分たちに課してしまったような気もした。

作品中で、ストッシュという一人の当事者がこう語る。「何回も自殺しようとしたけど何をやっても失敗した。たぶん生きる理由がまだ一つだけあるから。私たちの話を聞きたい人がいる」

日本にいる私たちが何ができるかはわからないが、ストッシュの言葉を日本に届けたことには意義があったと、同じ時代をサバイバルしている仲間として強く思う。

2014年2月、とうとうウガンダの反同性愛法は成立してしまった。闘いは続く。一人でも多くの方に、彼らの姿を見て、聞いてほしい。そして一緒に考えてもらえたらうれしい。

「エソラ」監督　田中昭全さんより

この度は、映画「エソラ」を上映いただきありがとうございます。

この映画の主人公と同じく、ぼくもゲイです。香川県の片田舎で、同性パートナーと共に暮らしています。双方の両親にはカムアウト済みで、一緒に旅行に行ったりたまにはごはんを一緒に食べたり、男女の夫婦と変わらない親戚付き合いをしています。

田舎が保守的というのは、果たしてほんとうなのでしょうか？少なくてもぼくの周りに居る友人たちは、ぼくとパートナーの関係性をごく普通のこととして受け入れてくれています。もちろん、ここに辿り着くまでは長い時間がかかりました。未解決の問題もあります。しかし、応援してくれる人たちが居る以上、おどおどしている暇はないのだと自分に言い聞かせています。

そんな地元で、念願の短編映画を作りました。制作にあたって気をつけたのは、『セクシュアルマイノリティの専門用語は使わない（恋愛の普遍性を描く）。』そして、『希望のあるエンディングを用意する。』かつての自分がそうだったように、この映画をみた人が勇気を持ってくれたらいいなと思います。

「青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバル」は地方発の映画祭ということで、ものすごい親近感があります。マイノリティに関わる問題だからこそ、地方でやる意味や意義はとても大きいと思うのです。

セクシュアリティのことを考えれば考えるほど、最終的には『どう生きたいか』というところに辿り着きます。他人からどう思われようが、自分のしあわせは変えられない。だったら、自分の考えるそのしあわせを、誰にでもわかるような言葉で提示すればいい。そこに共感できる何かがあれば、違いを超えてわかりあえるはずです。人生は常に、そこからしか始まらないのではないかとさえ思います。ぼくらの映画が、その一助となりますように。

「僕の中のオトコの娘」監督　窪田将治さんより

青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバル開催おめでとうございます。今回は拙作「僕の中のオトコの娘」を招待頂き大変嬉しく思っております。

この映画は女装と言う今、日本でポピュラーになりつつあるマイノリティ文化が舞台です。主人公は女装に芽生えることで自分の居場所を見つけますが非常に困難を強いられます。しかしそんな生きづらい世界でも主人公は必死に生きようと努力します。

日本映画界もまた世界の映画界と比べると非常に文化芸術意識が低く映画監督として生きるのは非常に生きづらい世界です。形、世界は違えど、この映画の主人公は僕自身でもあります。

この作品で自分に正直に生きる難しさや一歩踏み出す勇気を感じてもらえれば嬉しく思います。女装という文化を題材にした映画が皆様にどのように受け止められるか非常に楽しみです。どうぞお楽しみください。